雄峯

第64号

TOKYO FUJI UNIVERSITY

東京富士大学校友会

建学の趣旨

国家の前途と人類の将来は青年の優劣によって決せられる。青年学徒はその使命の重大なるを痛感して常に至誠に立つ指導者たるの修練に努めねばならぬ。

我学園は「人道による世界平和」の理想の下に時代を拓かんとする人材を養成せんとするものである。而してその構想は

一、大愛の涵養に努むること
即ち万物育成の大自然愛を養ひ諸民族の解放と和親を図り万邦の協和に貢献すること

一、正義の顕揚を図ること
即ち各々生存の自由と人格の尊厳を重んじ進んで自らの義務を完遂して億兆協力の実を挙げること

一、文化の向上に資すること
即ち常に人類の幸福を念とし各々その能力を最大限に発揮して更に万象の特性を活かして天地の繁栄を図ること

以上は我学園の設立の趣旨にして我等の日夜遵守すべき原則である。而して我学園の理想たるこの「人道世界の建設」は我民族の理想に一致し、更に人類の理想に合致するものと思惟せらる。もとよりその実現は人間性の一変せざる限り永遠の努力を必要とするものではあるが、この事は人間社会の無限の発展を意味し又我学園の理想の高遠なる所以を示すものである。

我々は困難ではあるが光栄あるこの大道を全人類と共に進み斯くして人類に光明を与へ常に希望ある世紀を拓き以て負荷の大任を全ふせんことを誓ふものである。　以上

昭和二十二年四月

東京富士大学校歌

高田勇道／作詞・作曲

一、春爛漫の夢さめて
匂える花の移ろえば
世は盛衰を嘆けども
至誠の矜厳かに
文化の流れ拓かんと
破壊の嵐吹きすさぶ
曠野を進む若人の
燃ゆる眸に希望あり

二、興亡くらき人類の
歴史の波瀾たけれども
見よ東雲の黎明に
世紀の鐘の音高く
挙りて謳う大き世を
四海の人に語らんと
時代に起てる若人の
守る使命に力あり

三、ああ海原の空広く
精神は清き民族の
明日の道にそなえんと
この学舎に集いして
久遠にかおる建設の
理想を高く仰ぎつつ
すぐりて結ぶ若人の
固き誓いに光あり

雄峯 第64号 CONTENTS

●建学の趣旨／東京富士大学校歌・目次……2
●あいさつ
雄峯第六十四号発行に寄せて　二上映子……3
卒業生に贈る会長の言葉　八城一夫……4
●特集第58回富士祭公開研究会
校友会主催研究会報告　八城一夫……5
「不可能を可能にした1000万人の人間力」　大田　弘……6
●校友会 第76回定期総会 講演会報告（落語）　松原春男……16
●東京富士大学に学ぶ
学生生活を振り返って　加藤美沙……18
自分らしくを大切に　齋藤悠生……18
●大学院経営学研究科修士課程を修了して　安部雅美……19
大学院での二年間　莫　定鋼……19
学び直しから始まった大学院生活
●支部支会報告
少林寺拳法部雄峯会　会長　本間羚次……20
雄峯マネジメント研究会　会長　森川　昇……20
東京富士大学会計人会　会長　若狭茂雄……21
●文芸
俳句　篝火　関　實……22
俳句　鰯雲　大原芳村……22
川柳　八雲　藤井　直……22
●校友の声
図書館で始まった、もう一度の挑戦　田代伸子……23
計報……24
●学園行事録・校友会事業計画・行事録
令和7年度学園行事……25
令和7年度校友会事業計画……25
令和7年度校友会行事録……25
●会計報告……26
●校友会会則……27
●校友会事務組織・分担表……28
●寄付者一覧表・行事案内……29
●編集後記……30
編集委員会……31

題字　二上貞夫前名誉会長

雄峯第六十四号発行に寄せて

令和七年度東京富士大学卒業の皆様、ならびに大学院修士課程を修了されました皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆様が学業に励まれたこの一年を振り返りますと、日本社会は大きな転換点を迎えました。自然環境においては、昨夏、統計開始以降最も高い平均気温を記録するなど、私たちは記録的な猛暑（最高気温が三五度以上となる「猛暑日」を記録した地点数も過去最多）と気候変動の厳しさに直面いたしました。

しかし、そのような試練の一方で、未来への希望を感じさせる出来事もありました。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催された大阪・関西万博は、二千五百万人を超える来場者を集め、次世代への可能性を示しました。また、政治の分野では憲政史上初の女性首相が誕生し、長い歴史を持つ組織の枠組みが変化するなど、まさに新しい時代の幕開けを感じさせる一年でもありました。

社会へ巣立つ皆様は、こうした変化の激しい時代を切り拓く担い手です。本学で培った知識と精神を糧に、どのような状況にあっても、「精神（こころ）は清き理想を高く」、希望を持って前進していただきたく願っております。

最後に、卒業後の繋がりについてご案内申し上げます。校友会では例年六月の第三土曜日に総会が行われます。懐かしい友や恩師との再会の場として、校友会誌『雄峯』をご覧の上、ぜひご参加ください。

皆様の洋々たる前途とご健勝をご祈念申し上げ、お祝の言葉といたします。

令和八年三月

東京富士大学・校友会 名誉会長
学校法人 東京富士大学 理事長 二上 映子

卒業生に贈る会長の言葉

東京富士大学校友会会長　八城一夫

東京富士大学経営学部卒業の皆様、並びに大学院修士課程を修了された皆様おめでとうございます。

同時に校友会に入会されましたことを心から歓迎いたします。

学長先生をはじめ諸先生方、本日はフレシュな卒業生たちのために、このような思い出に残る卒業式を執り行っていただき、心より感謝を申し上げます。

今日は卒業生の皆様の努力と情熱が実を結んだ結果の日です。これからの人生においても、その情熱を持ち続け、さらなる高みにを目指して進んでください。

大学の学びは、単なる知識の習得にとどまらず、人間としての成長や友情、そして多くの貴重な経験をもたらしました。これらの経験は、皆様の人生の宝となり、未来を切り拓く力となるでしょう

卒業後も、東京富士大学の一員であることを誇りに思い、校友会を通じて繋がりを持ち続けてください。校友会は、皆様の成長と成功を支えるために存在しています。困難な時には支え合い、喜びを分かち合う仲間として、共に歩んで行きましょう。

今年は丙午です。丙午は60年に一度巡ってくる年です。物事が一気に動き出し、新しい流れが生まれやすい転換の年と言われています。

この年は、新しいことや迷っていたことに挑戦する良い機会であり、変化への対応力が問われる年でもあります。エネルギーに満ちている年なので、大学での学びから将来の進むべき方向にしっかりと進んでください。

最後に、皆様の未来が輝かしいものであることを心から願っています。どんな困難が待ち受けていようとも、皆様なら必ず乗り越えられると信じています。自信を持って、新たな一歩を踏み出してください。

卒業生の皆様のご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

校友会会員になられた皆様へ

本年度校友会会員になられました皆様へ参考までに　1校友会会則について　2財政問題の取り組みについて　3今年度定期総会ご案内についてを記載しました。是非皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1校友会の会則について

第3条（目的）

本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1・各種研究会及び親睦会の開催

2・会報の作成及び配布等

校友会の一員として、校友会活動に是非ご参加くださいますようお願いいたします。（詳細は大学のHPをご覧ください）。

2財政問題の取り組みについて

平成30年度から始めました財政問題の取り組みについては、予算の関係上卒業年次より順次ご案内を差し上げることにしております。

3総会案内はP29に掲載してあります。

昨年度は、昭和57年58年の卒業生を対象に「賛助寄付ご協力のお願い」文を郵送しております。寄付金の総額は、別掲（P29）の通りであります。今年度は昭和59年60年の卒業生を対象に郵送いたします。この取り組みはまだ始まったばかりですが、少しずつ成果が出てきております。「継続は力なり」牛の歩みの如く続けていきたいと思います。

新会員の皆様はじめ全会員の皆様方のご協力ご支援をよろしくお願いいたします。

（昭和49年　経済学科二部）
（平成16年　経営学部夜間主）

特集第58回富士祭公開研究会

校友会主催研究会報告

八城一夫

令和七年十月二十六日（日）東京富士祭において、本館一階メディアホールに於いて公開講演会が開催され、司会進行を奥山飛雄馬氏にお願いしました。又当日はメディアホールにこれまでにない大勢の方々にご参加いただきましてありがとうございました。

また開催にあたり準備等学校側のご協力をいただきました。

本年の富士祭に於ける、公開講演会として何を行うか、八月の常任理事会で検討、題材とし二・三件ありましたが、出席委員から珍しく且つ良い話として「黒四ダム建設について」が紹介提案され了承されました。報告予定の方の当日の、ご都合などを問合せましたところ、快く了解をいただきまして本日の講演会の運びとなりました。

来賓挨拶としまして、東京富士大学理事長二上映子先生からご挨拶をいただきました。

講演会のテーマは、「黒四ダム　完成への闘い」という演題で講演者は大田 弘氏（株式会社 熊谷組 元会長）から長野県大町市扇沢よりの大町トンネル工事（約5㎞）が如何に困難を極めた工事であり、それを乗り越え黒四ダムの完成を成し遂げられた。

戦後の日本は急速な経済復興に伴い、日本各地で特に関西地区では深刻な電力不足が（デモにまで発展）社会的大問題になっていました。

そこで関西電力は、水力発電の適地とされながら厳しい自然条件によりダム建設を拒んできた黒部川に黒部ダムの建設を決定した。

小説・映画で紹介されました『黒部の太陽』の舞台となった大町トンネル工事です。（現在では関電トンネルとして長野県大町市扇沢から黒部第四ダム経由室堂経て富山県各地の観光地へと抜ける主要路となっています）

大町トンネル工事開始一九五六年八月（昭和三一年）翌年五月、堀削坑道2㎞地点で破砕帯（大量の土石流発生）に遭遇、土砂と冷水と安全労務対策等から稀にみる難しい局面と闘いつつ、破砕帯区間80mの突破に七ヵ月を要し突破、この間それぞれ立場、持ち場から責任者としていかに進めたか会社一体の命運を掛けて挑みトンネル貫通まで一年六ヵ月。

そして大町トンネルを完成させダム建設資材の大量搬送を可能になり一九六三年六月（昭和三八年）この間、七年の年月と一千万人の労力投入をはかり黒部第四ダムを完成させた物語を、大田 弘氏は休憩なしで、二時間に渉り、壇上と客席を行きつ戻りつ熱い語りを続けました。感動のお話でありました。

当日はお忙しい中、黒四ダム建設の苦労話とリーダーの在り方について、現代に通ずるお話を有難うございました。

心より感謝申し上げますと共にお礼申し上げます。

（昭和49年　経済学科二部）
（平成16年経営学部 経営学科夜間主）

特集第58回富士祭公開研究会

「不可能を可能にした1000万人の人間力」

―黒部ダム建設に学ぶリーダーのあり方―

報告者 株式会社熊谷組 元会長 大田 弘

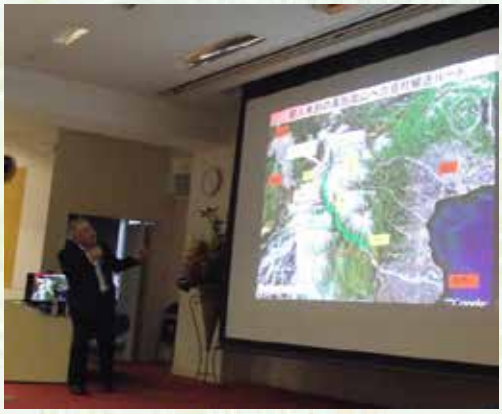
今、正面に映し出されております、富山県を代表する観光資源の一つであります、黒部ダムです。行ったことある、観たことある、聞いたことある、という方も少なからずいらっしゃると思います。私はこのダムのあります富山県黒部市から、先程北陸新幹線に乗ってやってまいりました。

黒部ダム

今日は東京富山県人連合会副会長であります、二上理事長とのご縁もございまして、82年の伝統ある東京富士大学・校友会講演会に招きいただきました。本当にありがとうございます。

今日は、基本的には黒部ダムの記録と言いますか、不可能と言われました黒部ダム建設の物語をどうやって先人達先輩たちが困難を乗越えて、それを突破していったかと云うお話を中心にいたします。

ただ一点今年は昭和という年号が始まって丁度１００年、そして３００万人以上が亡くなった戦争が終わって80年という節目にあたります。黒部ダムを作りました諸先輩もそうでありますが、日本の戦後復興をなんとか立派になし遂げて次の世代につなげたいという本当に強い気持ちでやってこられた。我が世代も同様ですね、先輩の背中を見て日本の幸せの為に頑張ってきたつもりであります。つもりでありますが、現代の世の中の状況で云いますと、戦後の動乱期ですら発生しなかったような悲惨といいますか、卑劣な事件を耳にすることが多くなりました。犯罪件数は自体は減っているわけでありますけれども、こんなことをやるのかというような事件を耳にすることが本当に多くなったと思います。



講演中の大田元会長

我々歩んできた昭和という時代が、日本の為に子供達の為にと思っていた生き方が全て正しかったのか、何処かにもっと大事なものを忘れてきたのではないのか、お金よりも大切なものをどこかに置き去りにしてきたのではないか、という観点から黒部ダムのお話をいたします。

最近知ったんですけど、社会を表す言葉に「お金だけ、今だけ、自分だけ」という言葉があるそうです、これは何も現代の若い人たちを批判しているつもりではありません。繰り返しになりますが、此処にいらっしゃる俺はちゃんとやってきたんだと思っておられる方々の、結果として今の社会も生まれている。

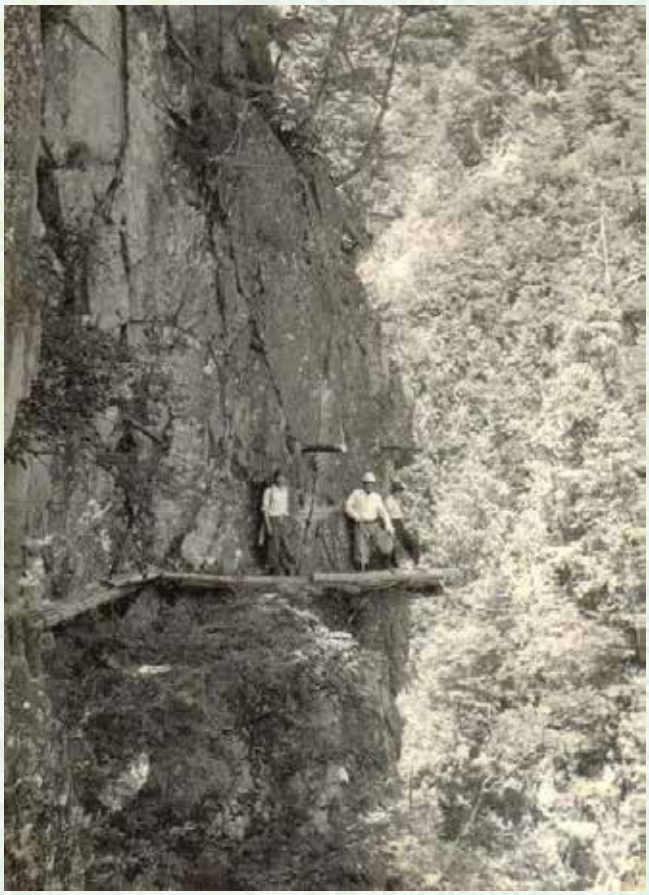
光と影が両方にあるということを自分自身もそうです

が、是非この黒四の物語の中で各自の人生の中で捉えていただきたいと思うのであります、贖罪のつもりではありませんけども、企業戦士というのに煽てられて日本の社会の中で故郷を一切顧みず40年間働き続けてまいりました。これは私の生まれた所の近くで草刈りをしているところであります（映像紹介）さっきから申し上げている、我が生き方の見直し、我々の何処かにおき忘れてきた忘れ物探しということであります。今実家と云いますか生まれたところで草を刈りながら地元の人の色々なお手伝いをしながら日々暮らしているところであります。

地方創生という言葉がずっと言われ続けています。60年前疎開という言葉が出ました、人の空洞化です。人の居なくなってしまった田舎の方に40年前集散化という言葉がありました。耕作放棄地が出始めるのですね、土地の空洞化です。20年前限界集落という言葉が出てきました、村組織の空洞化、祭りが出来ない伝統が引き継げないといった三つの空洞化を地方創生と云うものの背中を押しているわけでありますけど、なかなか上手くいっておりません。地方創生の困難さは今も変わりません。

ただもう一点、もっとも懸念されているのは、誇りの空洞化だと指摘する学者がいる。どこで一番すすんでいるのか、誇りの空洞化。東京で一番進んでいるのが誇りの空洞化なんです。自分の仕事の誇りが持てない、自分の住んでいる所に誇りが持てない。これこそが人口減少だとかGDPだとかそんなちっぽけな話よりももっと日本の危機であると、日本の国難であると、十数年前から指摘する学者もいるわけであります。ただですね、捨てたもんではなくて、県人会でもそうですが、ずっと若い世代、我々の孫の世代が、こういう事で良いんだろかと、先ほど言いました「お金だけ、今日だけ、自分だけ」ということで、我々の世代はこのまま生きて行って良いのか、という疑問を持つ人間が出てきています。

誇りの空洞化の発生源であります東京の若者はこれじゃまずいぞと気づき始めている、事実だと私は思うのであります。余計なことではありますけれども、ここで大事なのは、我が世代の人達が「そんなこと言ったって、今時代が変わったから私たちは何もできない、私たちの言う事なんか聞かない、面倒くさい」と言って孫たちに対して小言を言うのをやめていませんか。もうあきらめていませんか。というのが非常に大事な

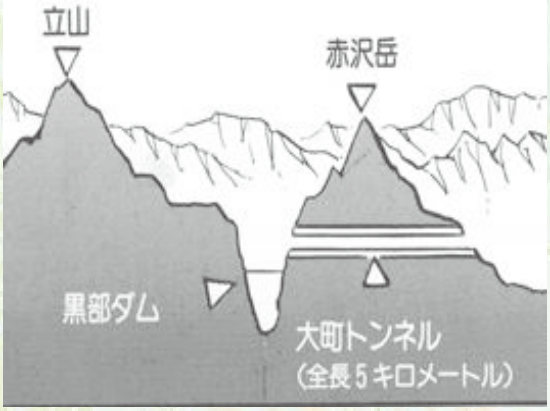

黒四調査隊

観点だと思っております。

この懸念される誇りの空洞化を払拭したい。黒部ダム建設ドラマのお話を致します。

一．〝黒四（クロヨン）〟プロジェクト

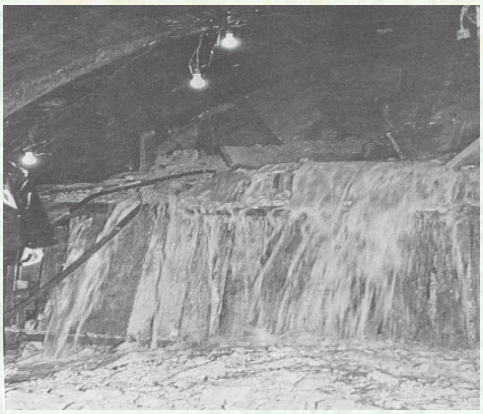
黒部川第四発電所（通称：黒四）戦後復興における関西地区の深刻な電力不足を解消するための関西電力が黒部川の最上流部（河口から60㎞上流）に建設したものであるが、調査すらままならない人跡未路の奥黒部の過酷な自然との闘いであった。



大町ルート

黒部川の電源開発は河口から20㎞上流にある宇奈月を拠点に大正時代に開始され、戦前には黒部川第三発電所まで完成していたが、黒四は更にその先20㎞先に計画された。この区間はアルピニストすら躊躇するようなV字峡谷・断崖絶壁が立ちはだかり、加えて、黒部ダム建設（高さ186m／堤頂長／492m／堤体積188万㎥）には、それまでとは比較にならない大量の資機材の運搬ルートを如何に確保するかが、先ずもっての課題であった又、当時、関西地区では停電が頻発「電気をよこせ！」といったデモが発生するまでの切迫した状勢にあり、一刻も早い黒四建設が必要だった。黒部川遡上する黒部ルート、3000m級の北アルプスを越える立山ルートはいずれも完成予定工期7年を満たすことができず、長野県大町からの県堺を越え、約5㎞のトンネルで北アルプスを貫き、ダム建設サイトに直結する大町ルート（関電トンネル）が決定された。1956年8月（昭和31年）黒四建設の成否を決定づける関電トンネルの掘削が開始された。担当は佐久間発電所建設（1956年完成）で米国製の大型重機（ジャンボー）を使用したトンネル高速施工（全断面掘削）の実績があった熊谷組が担当した。掘削は極めて順調に推移し、平均日進10m、月300mを超え、当時の堀削日本記録を塗り替えるスピードであり、黒四建設は明るいスタートとなった。

ところが1957年5月、坑口から約2㎞進んだ地点で、脆弱な地盤、大断層破砕帯に遭遇し、切羽が崩壊、地盤が脆いことに加え、地下水圧は400Kpa、最大毎秒660リットル水温4℃の大量出水に見舞われ、数ヶ月間にわたって立往生、黒四建設は危機的な状況に追い込まれた。


破砕帯に遭遇

一向に収まらない出水、常に崩壊の危険と隣り合わせの日々が続いた。「黒部は危険」との報道もあって「チチキトク　スグカエレ」などの電報が届く。そして山を下りる作業が続出した。破砕帯突破の見通しが立たず士気低下が著しい中、同年8月関西電力初代社長太田垣が現場を視察し、関係者を激励。太田垣の並々ならぬ覚悟と決意を感じ

取った現場最前線は息を吹き返した。国鉄などのトンネル技術者も招集され、対策工法を検討・実施・水抜きトンネル10本（総延長４９９ｍ）、ボーリング１２４本（総延長２８９８ｍ）、モルタル注入の効果もあって、１９５７年12月、7カ月間を掛けて遂に80ｍの破砕帯を突破。それまでの日進10ｍからして気の遠くなるような長い格闘であった。そして、１９５８年2月黒四建設の大動脈、大町ルートが貫通し、黒部ダムの建設は一気に加速され、１９６３年6月（昭和38年）に完成、延べ１０００万人に及ぶ人々の汗と涙の結晶であった。

小説「黒部の太陽」には、特に破砕帯遭遇から突破までの壮絶な闘いとそれにまつわる人間ドラマを緻密な取材に基づき実名で描いている。その後、１９６８年に映画化（主演：石原裕次郎、三船敏郎）され、観客数７３０万人の空前の大ヒットとなったが、この映画に触発され土木界を目指した若者が少なからずいた。黒部川電源開発の拠点となった宇奈月で生まれ育った筆者もそのひとりである。

小説には黒四に命を懸ける多くの土木技術者が登場するが、ここでは建設の最高責任者　関西電力初代社長　太田垣士郎（１９６４年没・享年71歳）と破砕帯突破の最前線指揮者　熊谷組笹島班 班長　笹島信義（１９６４年笹島建設を設立・２０１７年没・享年９９歳）に焦点をあて、日本の土木史上、稀にみる難工事との闘いの一部を紹介する。

二．破砕帯との遭遇

１９５６年8月から掘削が開始された関電トンネルは57年2月には平均日進１０ｍ、月進３００ｍ越え順調に進捗しており、日進20ｍ、月進５００ｍを目標とした研究もされていた。しかし、4月に入ると度々切羽（トンネルの先端）の崩壊が発生し、日進は徐々に低下、29日にはジャンボーによる全断面掘削が全く不可能になり手掘りに逆戻りとなった。そして『5月1日午前3時50分、トンネルを支えている頑丈な鉄の支保工が至るところでたわみ、曲がり始めた。正午ごろ、溶接部が折れて次々に飛び始めた。ゴーッと、山鳴りが全員の耳を不気味に打った。「退避、全員退避せよ！」大きな轟音が坑内に』とどろいて、切羽から10ｍにわたって見る見る支保工が飴のように押し曲げられ、へし折られていった。同時に、切羽がダンプで土でも捨てるかのように、一気に無造作意にきて、その上部から滝のように湧水がせきを切ってほとばしり出た。』懸念されていた「破砕帯」との遭遇である。一向に減ることのない大量の地下水と軟弱な地盤は行く手を阻み、「掘っては崩され、崩れてはまた掘る」の繰り返し、一日1㎝を進むのがやっとの日々が何ケ月も続いた。兎にも角にも「水を抜く」「水を止める」ことが対策の基本とされたが、4℃の大量の湧水が作業員の体温を奪い去り、20分交代と云う人海戦術を余儀なくされた。現場には焦燥感が漂い、喧嘩も頻発。士気は著しく低下した。しかし男たちは諦めなかった。7ヶ月間に渡る苦闘の末、ついに不可能と云われた破砕帯を突破した。

三．運命を変えた関西電力社長の視察

何故、不可能といわれた破砕帯を突破することが出来たのか？当時の関係者は語る。「最初は責任のなすり合い。

太田垣社長の大町トンネル現場視察

しかし、そのうち〝トンネルを抜くためにはどうしたらよいか〟発注者・元請・下請が立場（契約）を超えて心が一つになった」と。お互いが「感謝と信頼の輪」で結ばれたとのことだった。

その大きなきっかけなったのは社長 太田垣の破砕帯視察だった。太田垣は１８９４年兵庫県城崎町生まれ、小さいころからあまり体は丈夫ではなかった。京都帝国大学　経済学部を卒業後、阪急に入社。創業者の小林一三の元で阪急電鉄の社長を務めていたが、電力の鬼と呼ばれた「松永安左衛門の強い要請により１９５１年関西電力初代社長に就任、黒四建設を決断した男だ。

関電トンネル貫通の見通しが立たず建設費が増大する一方の中で黒四建設に反対する声が社内外から起きていた。太田垣は「自分の目で破砕帯を確かめる」として大町を訪れた。

その時の逸話がある「社長、これ以上前に進むのは止めて下さい。極めて危険です」と周囲は制止したが、太田垣曰く「君、何を言っているのかね、ずっと奥で作業員が働いているじゃないか、その危険な仕事をさせている責任者の私が行けないとはどういうことかね」として笹島に案内をさせ64歳とは思えない足取りで前に進んだ。

人ひとりがやっと通れるかどうかの水抜きトンネルの最先端で太田垣は笹島に問う「どうかね、掘れそうかね」と。笹島はいつ崩壊を起こしてもおかしくない坑内での太田垣一行の身を案じて「何とかなるでしょう！」と即答した。言い訳がましい意見を言って議論になり、危険地帯に長時間居座られるには何としてでも避けたかったのだ。笹島は「5分の視察だったが1時間に感じた」と云う。視察を終えた太田垣は部下に「笹島と云う男は妙に明るかった。あの男なら破砕帯を掘りぬくよ」と言った。そしてまた「金は幾らでも使ってくれ。機械は世界中で一番いいのを使ってくれ。僕が責任を持つから何も心配せずに、ただトンネルの貫通にだけ全力をつくしてくれ」とも語り、非常事態に備えて昼夜兼行でのシールドマシンの制作を合わせて指示した。シールドは１９３６年関門海底鉄道トンネルで採

太田垣 士郎
（おおたがき しろう）

明治27年
兵庫県城崎町 生まれ
大正9年(27歳)
京都帝国大学経済卒
昭和21年（53歳）
京阪神急行 社長に就任
昭和26年（58歳）
関西電力 社長に就任
昭和38年（70歳）
黒四竣工
昭和39年（71歳）
逝去

用された画期的な工法であったが、非常に高価であり、また、使うかどうか判らないものを並行して制作することに現場は躊躇していた。太田垣は言った。「遠慮しちゃいかんよ」「仮に不要になったところで、それならなおさら結構じゃないか」そして、数日後、一枚の葉書が太田垣から笹島に届いた。大会社の社長から下請けの親方への異例の視察礼状だった。「皆様の明るい表情を見て安心した・・・日本の土木の名誉にかけて・・・」と書かれてあった。」笹島は作業員を招集し、檄を飛ばした。「関電の社長は我々作業員と同じ目線、同じ立場で破砕帯と向き合っている「よほどの覚悟と決意を持って視察されたのだ」「我々には土木の名誉と云う難しいことは良くわからないが、破砕帯を突破しない限り黒四はできない」「下請けの意地にかけてもトンネルを抜く！」と。笹島は太田垣に心底から「惚れた」のだった。

太田垣の一連の行動は現場に感動を与え、最戦線に立つ作業員の〝野性〟〝意地〟にも火を点けることになったのだ。まさに運命を変える一枚のハガキとなった。

視察から1週間後、大阪に戻った太田垣は「破砕帯突破に掛ける。ルートは変更しない」ことを決定、幹部会議では破砕帯難工事の様子を詳しく説明し、社内の総力を結集するように要請した。「黒四は世間では危機だといわれているが、私自身もトンネルの奥深くまで、ずぶ濡れになって見て回って、確かに危機に間違いないことを確認して来た」「しかし私は、どんなことがあっても黒四は完遂する覚悟だし、また、現場で十分検討してみて、それは出来るとの確信も得て来た。私は関係者に一同に、心配せずにやってくれと激励してきた。そこで皆さんにお願いだが、何とか黒四の戦士たちを、励まし勇気づけてやってもらいたい。全社が一体となって、鉛筆一本、紙一枚も、黒部の仲間に送るようにしてもらいたい」と情熱を込めて語った。この呼びかけにたちまち共感の輪が拡がり、「黒四に手を貸そう！」との運動へと発展、太田垣の情熱は感染の一途を辿った。

四. 人の使い方「惚れさせること」

太田垣に「惚れた」笹島にまつわるエピソードを紹介しょう。

笹島は1917年7代目の農家に長男として富山県入善町で生まれた。尋常高等小学校を卒業後、家を継ぎ、20歳で満州に出兵。敵の鉄砲で首

山が凍った

を貫通した被弾を受けたものの外気温マイナス30℃が止血作用となり奇跡的に生き延びた強運の持ち主だった。　佐久間発電所のトンネル工事で力を付けた笹島は熊谷組から関電トンネルの親方に指名された。指名された当時、笹島は「稀に見る山岳地帯。掘れるかどうかわからなかったが、富山県黒部川で育った自分が最適任だと自惚れがあった」と云う。

破砕帯に遭遇し、対策会議が行われた時のこと、突然、笹島は意見を求められた。「笹島君、君はどう思うかね？」と、笹島は即答、「冬になれば水は減ると思います」その理由、「科学的根拠を厳しく問い質されたが笹島は上手い説明が思いつかず「山勘です！」と答えることが精一杯だった。

大町作業所　労働者名

周囲から叱責・失笑を買ったが、笹島には山勘の裏付けがあった。

堀削開始から破砕帯に遭遇するまで9カ月間で、笹島率いる1500名の大集団はすでに大町の厳しい冬を体験していた。炊事洗濯、入浴には大量の水が不可欠であったが、着工した8月に溢れんばかりに扇沢の水があった。ところが冬が近づくと水の量が減少しはじめた。大きな井戸を掘って凌ぐことは出来たが、やがて12月に入る頃には井戸を幾ら深く掘っても水が得られなくなった。生活水はトタン屋根の小屋を建て、下から火を焚いて屋根雪を融かすことで確保した。

「破砕帯の水は日本海と繋がっており、永久に減らない」との噂は流れ、作業員は浮足たった。笹島は言った。

「心配するな。水は必ず減る。破砕帯は突破できる」「お前らも知っている通り、冬になれば山は間違いなく凍る。信じてついて来い」と。笹島は山勘ではなく確信を持って「冬になれば水は減る」発言したのだった。

笹島は黒四での体験から人の使い方（リーダー論）を次

殉職者数：171 名

原因

① 墜落 60 名
② 落盤 49 名
③ 大型重機による車両事故 31 名
④ 発破 15 名

殉職者死亡原因

のように説く。「怒鳴っては駄目、甘やかしても駄目、惚れさせることが大事だ」と。破砕帯に遭遇した当初、作業員はこれまでにない「恐怖」感じていた。　最初は作業員に対してハッパをかけ、怒鳴り散らしていた笹島は「俺は人の大事な命を預かっている。やつらも必死なのだ。怒っていてばかりいては駄目だ」と思うようになった。冷湧水対策とし漁師用の分厚いカッパを準備、後方には薪ストーブをそれまで以上に多く配置し、戻ってきた作業員を最優先にして冷え切った体を温めさせた。そして「何か必要なものがあったら何でも言ってくれ」と声を掛けて回った。そのうち、作業員は自ら積極果敢に振舞うようになった。笹島は「無茶をするな。危ないぞ！」逆に制止したと云う。私は10年前、笹島に「貴方の最大の財産は何か？」と問うたことがある。笹島がおもむろに大きな金庫から取り出したのが「４６８１名の人夫帳」（関電トンネル大町作業所・作業員名簿）、つまり黒四の戦士たちの名簿であった。それには住所、生年月日、採用日、家族関係、職種などがこと細かく書かれてあった。

当時の作業員の証言では笹島から良く声を掛けられたという。「来年には息子が中学生だな。体に気を付けて頑張れよ」「お母さんの神経痛は良くなったか？」など笹島は一緒に働く作業員を家族同然に扱っていたのだった。

これを裏付けるような出来事が15年前の笹島建設の安全大会で起きた。安全担当者が事故の起きる曜日・時間帯を統計分析して「休み明けは気が緩むので気を付けよう」などと始めたが笹島は激怒して５分ほどで安全大会を中止・解散させた。「こんな分析をする時間があるなら１分でも長く現場に居ろ！」「現場では全員が家族。家族だと思えばお互い注意し助け合い事故なんか起きないだろう！」黒四での殉職者１７１名、内、熊谷組担当工区では23名だったが、破砕帯本坑突破時はゼロ、大半は堀削順調区間での事故であった。笹島は緊張感（厳しさ）のなせる業」と「仲間を思う優しさ」が何より大切であることを教えたかったのだろう。

笹島が太田垣と再会するのは１９６３年富山市で行われた黒四完成式典だった。２００人の会場の末席に笹島がいた。太田垣の秘書が笹島の席に来て「会長が呼んでいる。来てもらえませんか」と云った。

まさか？と思いつつ言われるままに最上席にいた太田垣のところに行った。

やぁ笹島君、久しぶりだね。覚えているかね。太田垣だよ」「破砕帯の時に比べると随分、表情が柔らかくなったね」「おかげで黒四ができたよ。ありがとう」と６年ぶりの再会、笹島は涙が止まらなかったという。そして太田垣は翌年に他界した。

黒四の後、「惚れさせる」をモットーに笹島は青函トンネル・恵那山トンネル・大清水トンネルなどの難工事に立ち向かうことになったが、黒四のことを思い起こせば、困

難な現場は一切なかったという。

五. 黒四が遺したもの　―志の連鎖―

小説には黒四後も土木界で活躍する著名な技術者が多く登場する。延べ１０００万人の人々が力を合わせて造り上げた黒四だが、語り継がれるヒーロー、関係者は極々一部の人達だ。

10 年ほど前、私は故郷・宇奈月に帰った時、村の老女が私にこう言った。「黒部での私の担当は炊事洗濯係、高い山での美味しいご飯を炊くのは至難の業だった」「男衆の元気の源は少ないおかずで腹いっぱい食べるご飯、私の炊くご飯は日本一だと誉めてくれた」「こういっては何だが私が居なかったら黒四は出来なかった。黒四は私が造ったようなもの」と。私は涙が止まらなかった。無名の多くの人々にそれぞれ誇り、それぞれの黒四があってこそ世紀の偉業を成し遂げることができたのだ。

黒四が遺したもの。一つの戦後復興・経済発展という「お金」、一つは土木技術の発展という「物」、そして最も凄いことは太田垣から笹島、村の老女に至るまで“志の連鎖”という「人」であったのだと思う。

黒四での作業員リクルート作戦は「白米が食べ放題」だった。過ぎる豊かさを享受する現代社会で通用する話ではない。ただ、黒四を日本昔話として捉える訳にはいかないと私は思う。日本には『籠に乗る人担ぐ人、そのまた、草鞋を作る人』という素晴らしい格言があるが。もう一度、何処かに置き去りにしてきた「お陰様の精神」を取り戻す必要がある。

ここの黒四では、太田垣士郎から笹島信義から下北（青森県）から来ている作業員から賄い部のお母さんまで全員がなくてはならない人だったんです。同じよう様な話を繰返しますけどね、今日本は色々な意味で大きな壁に当たっていると思います。私の考えですが、成長とは何かといったら社長になったとか県知事になったとか、そういうことでなくね、それらに誇りや、やり甲斐が伴っているかどうかだと私は思います。誇

大田　弘（おおた　ひろし）略歴

１９５２年１２月	富山県黒部市（旧宇奈月町生）	
１９７５年　３月	北海道大学　土木工学科卒業	
１９７５年　４月	株式会社熊谷組	入社
２００２年　４月	〃	執行役員
２００３年　６月	〃	常務取締役
２００５年　６月	〃	代表取締役社長
２０１３年　６月	〃	代表取締役会長
２０１５年　６月	〃	相談役
２０１７年　６月	〃	社友（現任）
２０１９年　８月	富山県立魚津高等学校同窓長	
２０２４年　３月	東京富山県人会連合会長	
２０２４年　６月	とやまファン倶楽部代表世話人	
２０２４年　６月	（公財）富山県学生寮評議員（現任）	

り遣り甲斐を伴わない成長は、いわゆる単なる膨張だと私は思います、膨張とは人がどう思っているとか人から羨ましがられいるとか、そういう小さい話じゃなく、いずれ自分の中で破裂です。

40年間ほっぽった宇奈月の地元に私は今住んでいます、東京と行き来しています。山小屋みたいな家を作って蛍が戻って来るような状態にもしました。私が捨てた故郷に戻らせた事件は実は小学校1年生の時に起きた事件忘れられなくて、この歳になって宇奈月に戻ったわけであります。裏庭に柿の実が三つなっていました、ばあちゃんに言いました。「ばあちゃん、あの柿三つ取って食べたいから取って」ばあちゃんは何って言ったかと云うと「一つはいいけど、もう一つは鳥に食べさせる」「え、じゃあ三つ目はどうすんの」「それは腐らせて地面に返すんだ」その時はケチな人だと思ったけど、段々社会人になって企業戦士と煽てられて、働き方改革なんてくそくらえだと言ってね、立場的には一部上場会社の社長になって、あたかも成長したように見える人間が、この事が忘れられない。

こういう世の中に成ればなるほど忘れられない、家のばあさんは小学校にろくに行けなかった、小学校はあったんですよ、うちの村では女性の小学校就学率は10％に満たなかった、男子で20％だったんですよ。ひらがなもカタカナも読書きできなかった。歳を重ねれば重ねるほど、いったい誰からこんな人間としての基本作法を、生きるための作法、これを一体誰から教わったんだろうかという話が東京で長いことやってればやってるほど段々頭の中で大きくなってきて、いずれ必ず帰るということを40歳位には決意していました。ばあさんの所に帰る。

しかも彼女は物事がどんどん発達しても生き方のスタイルは変えなかった。幸せの物差しというものは便利になると色々変えていきたくなるもんですけど、ばあさんはずっとそれを通したわけであります。お陰様で生きている有難さということであります。

一番最後に皆様に贈りたいと思います。今話題になっている働き方改革。働き方改革の目的は、誇りや遣り甲斐を取り戻す事が、働き方改革の目的だとおもいます。午後5時に帰ることが働き方改革の目的ではありません。多様性というのはその人の我儘を言うのではなくて、チームプレイを大前提にして、あの人はこういう事が得意なんだ、あの人はこういうことが苦手なんだ、あの人はこういう事情があるんだと、お互いに認め合う。それならこういう風にしてチームプレイをしょうじゃないか、それによって誇りや遣り甲斐をもう一度取り戻すという働き方が改革だと思っております。

働き方改革よりも、働き甲斐改革ではないかと、生き方の学び直しであります。ありがとうございました。

講演での大田さんは、立ちっぱなし休憩なしで2時間客席とを行きつ戻りつ、予定時間を越えエネルギッシュで熱い語りに、参加者の皆さん引き込まれていました。

（文中敬称略）

第76回定期総会 講演会報告（落語）

報告者　松原　春男

第76回定期総会は令和7年6月21日（土）に、東京富士大学本館一階メディアホールで開催されました。総会に先立ち講演会が行われ、入船亭扇里師匠の落語二題（三題）が行われました。師匠の講演は、令和四年と令和五年に続き三回目で、出席の会員の皆さんには馴染み深い方も多かった事と思います。又最初に演じた「ぞろぞろ」は令和五年に、二番目に演じた「五升酒は令和四年に演じて頂いたのでご記憶の方も多いと思いますが簡単にあらすじを説明します。最初の演目「ぞろぞろ」は落語の王道で、難しく考えないで大いに笑って楽しむのが良いそうです。

参拝客の少ないとある稲荷神社、その参道にある滅多にお客の来ない茶店がある。その茶店は老夫婦が営んでおり、何とか生活するのが精一杯の状態。そんな状況でも信心深いおばあさんはお稲荷さんへのご奉仕や供え物は欠かすことはなかった。ある日のこと、おばあさんに勧められおじいさんがお稲荷さんへ行き、茶店の繁盛を祈り店に戻ると突然の大雨。すると一人の参拝者が雨宿りにお店に入ってきた。お茶を飲み店を出ようとした客は、帰り際に店内に一足だけ売り物として残っていた草履を買って行った。これはご利益があったと喜ぶ老夫婦だったが、間もなく別の客が来てワラジを売ってくれと言う。申し訳ないです、ワラジは先ほど売り切れました。何を言ってるんだ、そこに吊るしてあるワラジがあるじゃないかと客に言われ振り返ると、先ほど売れたはずのワラジがぶら下がっている。これには驚く老夫婦、ワラジを客に売ると、また別の客がワラジを求め店を訪ねる。するとワラジはぞろぞろと天井から出てくる。一足売れれば、またぞろぞろこれが評判を呼び、この茶店は名所となって繁盛していく事になりました。

向かいにある床屋の主人は、来る日も来る日もお客が来なくて生活は厳しかった。そこで繁盛した茶店の話を聞き、床屋の主人はお稲荷さんへ参拝に商売繁盛を祈りに行く。茶店のようなご利益を私にもとお願いする。店に戻った主人は、お店の前に行列が出来ているのを見て俺にもご利益があったと喜ぶ主人。これで商売繁盛、俺も安泰だなと最初の客の髭にカミソリを当てるのだが・・・ぞろぞろ髭をすってもすっても新しい髭が生えてきた。

次の演目は、「試し酒」という演目で、尾張屋の主人のところに馴染みの近江屋が下男の久蔵を連れてやって来る。そして近江屋は、「久蔵は大酒飲みで五升は飲める」と自慢するので、尾張屋は久蔵が五升を飲めるか賭けを持ち掛け、久蔵が五升を飲めたら、湯河原で遊ぶ費用は私が持つと賭けを申し出る。外で待っている久蔵が呼ばれ、久蔵に賭けに乗るよう話しかけるが乗り気がしない。そこで尾張屋は、久蔵が賭けを受けなければ近江屋の負けだと告げると、少し待ってくれと言って外に出ていく。しばらくして、久蔵が戻ってきて賭けに乗ると言い、大きな杯で一升ずつ飲みながら主人・近江屋の愚痴を言ったり、身の上を嘆いたりしながら五升の酒を飲み干してみせる。賭けに負けた尾張屋は驚き、「さっき外に出て行った時に、酒に酔わない薬でも飲んだのか、それとも何か呪いでも受けてきたのか」と尋ねると、久蔵は「五升の酒を飲んだことがなかったので心配になり、表の酒屋で試しに五升の酒を飲んで来た」と答えました。

この二話で終わる予定でしたが時間があるという事で「持参金」という演目をサービスで演じてくれました。この話のあらすじは、あるお店の番頭が、悪酔いした時に介抱してくれた女中のお鍋と深い中になってしまい、お鍋のお腹は大きくなって臨月を迎えてしまいました。こんなこ

とが大旦那に知れれば、店を解雇されるのは確実で、困り果てた番頭は金物屋の佐助のところに相談に行く。佐助は、二十円の持参金付なら貰ってくれる阿保な男もいるかもと、お鍋の嫁ぎ先探しを引き受ける。番頭は知り合いの清さんの所へ、ある時払いの催促なしで用立てた二十円を回収に行く。いきなり今晩までに二十円を返してくれと言われた清さん、そんなお金はすぐにできるわけもなく、少し待ってくれと頼むが、番頭は今晩までに必ず返してくれと言って帰りました。一方、お鍋の貰い手を考えている佐助さん、やもめ暮らしで、金は無く、人のいい清さんに白羽の矢を立てて清さんの所へやって来て、いきなり「嫁さん貰い」と清さんは「どんなお女（ひと）だす」と聞くと、佐助は「今年二十二で気立ては良く、背はスラーと低く色はくっきり黒い。額はぐっと出て真ん中に鼻が陥没している。目は小さいけど口は大きい。炊事、洗濯、裁縫は半人前・茶や花、琴三味線は嗜まないが、その代わり飯、酒、煙草は四人前…ただ、一つだけキズがあるんや」呆れて聞いている清さんに「お腹に臨月の赤子がおるんや、この女を嫁はんに貰う気はないか」と佐助が聞くと、人をおちょくるもいい加減にしろと断る清さんに「こんな女でも二十円つけると言えば、誰ぞ貰うてくれるだろう」と帰ろうとする佐助。二十円と聞いて清さん「それ、貰いましょう、二十円と一緒に今晩」と引き留める。今晩は早すぎるという佐助だが、今晩でなければ貰わないと清さん、それなら今晩連れて来ると佐助は帰って行った。しばらくすると、番頭がまた二十円の催促にくる。清さん「晩方に取りにきておくれ」と言って番頭を返しました。さあ、清さん垢まみれの家の中を掃除し、お風呂に行って嫁さんの来るのを待つばかり。夕暮れ方に佐助が花嫁のお鍋さんを連れてやって来た。嫁さんに目もくれず清さん「あの二十円」と手を差し出す。佐助「いや、ちょっと都合があって、明日の朝ということになったんや」と帰って行きました。清さんお鍋さんの新婚さんは、佐助が差し入れた酒と料理をたいらげ、仲良く枕を並べて寝てしまいました。

翌朝早く、番頭が「昨日の晩は手が離せずに来れなかった。朝起きて一番で飛んできたんや。さあ、二十円返して貰おうか」、清さん「わての方も今朝ちゅうことになったんです」番頭「そうか、大丈夫か。そなここで一服しながら待たせてもらおう」と居座り、安心したのか二十円必要のいきさつをべらべらと喋り出した。手を付けて腹ませた女中のお鍋を、佐助と相談して二十円をつけてどっかの阿保に押し付けてしまおうという算段をばらしてしまった。

清さん「わても昨晩、佐助はんの世話で嫁はんを貰いましてな」番頭「へえ、それはまた別の話で」清さん「別やおまへん、腹ぼてで、二十円付きで」番頭「ほなら…あの…お鍋」とびっくり、どうしたものか口ごもる。番頭の手つき女とその子供まで押し付けられて、怒り心頭と思いきや、清さん、「まぁ、これも縁や、子供の親がどこの馬の骨か分からんよりも、番頭さんと分かってりゃあ、また何ぞの時頼りになる」と大人（だいじん）の心境か、番頭をゆすっているのか。一件落着だが、さあ、そうなると二十円のことだ。番頭→佐助→清さん→番頭、どれが尻やら頭やら。清さん手ぬぐいを二十円に見立てて番頭に渡す。番頭「これを持って帰って佐助はんに渡す。ほたら佐助はんがここえ持ってくる、これで片付くわけか」清さん「ほな、ぐるっと一回り、回りまんのやな」番頭「ほんに、金は天下の回りもんやなぁ」

落語は同じ話を何回聞いても、理屈無しで笑って楽しく聞けるので本当に良いものだなと思いました。

（昭和四十一年　企業経営科）

東京富士大学に学ぶ

学生生活を振り返って

加藤美沙

三月の卒業を控え、この四年間を振り返ってみると、自分自身の価値観が変わった時間だったと感じます。

私たちの大学生活は新型コロナウイルスの影響が残る中で始まりました。一部の授業はリモート形式となり、学生同士でなかなか顔を合わせられないもどかしさがありました。対面での交流が制限される中で、このまま誰とも深く関われずに大学生活が終わってしまうのではないかという漠然とした不安を感じたこともありました。現在、当たり前のように友人と遊びに出かけられるのは、そうした時期を経験したことでより価値のあるものに感じられるのだと思います。

私が大学生活を経て学んだことは「人は一人だと出来ることに限界がある」という事実でした。授業中のグループワークも、自分一人の力で抱え込んでいては決して成立しません。「誰かに頼ることでその人に迷惑をかけてしまうのではないか」と考えがちだった私ですが、実際には仲間と協力し、多角的な視点や得意なことを持ち寄ったほうが、より良い成果に繋がると、講義やゼミでのグループワークを通じて痛感しました。

加藤美沙

また、私はこの四年間で「人に頼られること」よりも「人を頼る」ことの大切さに気が付きました。一人で突き進もうとすると、いつか自分の限界に達し、精神的にも疲れてしまい、成果物の質も下がってしまいます。ですが周囲に相談し、適切に助けを求められる人の方が、精神的にも余裕を持って物事に取り組むことができ、結果的に成果物の質も上がります。これは決して楽をしたいという意味ではなく、自分の限界を素直に認めた上で、周囲の力を借りてより大きな成果を目指すという、一つの「強さ」なのだと思います。

四月からは社会人として新しい生活が始まります。大学で得た知識も大切ですが、「人を頼り、協力し合うこと」の重要性を忘れずに、これからの困難も乗り越えていきたいと考えています。

最後になりますが、充実した大学生活を送れたのは友人や関わってくださった先生方など多くの方の支えがあってこそだと思っています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（経営学部イベントプロデュース学科）

自分らしくを大切に

齋藤悠生

卒業に先立ち、大学生活を振り返ると、様々な出会いと経験が詰まっていたと感じています。学生組織である学友会執行部やゼミ活動など、貴重な時間を過ごすことができました。

高校時代は園芸を中心に学習していたため、農学部の大学に進学する予定でした。しかし、進路の幅をより広くしたいと考え、企業や社会を総合的に学習できる経営学部に決めました。

私はこれまで、興味の赴くままに選択をしてきました。時には慎重になることもありますが、興味を貫くことで、自分のオリジナリティを生み出せると考えたためです。入学当初は、経営の基礎を学びながらマーケティングに興味を持ちました。しかし、様々な講義を経て、人間の心理やストレスについて学習したいと考えるようになりました。元の興味に飽きてしまったのではなく、根本的な学問の魅力や教授の人柄を受け、極めたいと思える分野に出会えた感覚です。見通しのない選択とも言えますが、興味こそ良い結果を残すと考えています。

齋藤悠生

本学は経営学部としては珍しく、心理学を学ぶことができます。2年生から3年間心理学系のゼミに所属し、それに合わせて心理学関連の講義を全て履修しました。ゼミでは、グループワークを中心に、ゼミ生とコミュニケーションや発表までの計画・運営など様々な経験をさせていただきました。このゼミの経験と、講義で得た知識が今後の進路に大きな影響を与えてくれたと感じています。

卒業後は、精神保健福祉士として働くために、専門学校へ進学します。大学生活を通して、人と話すこと・相談することの重要性を実感しました。必要なスキルを身に着け、専門職としてどれだけ成長できるか試したいと思います。

経営学科には、将来自分が何をしたいのか分からない学生が多いと感じます。しかし、そのような学生が来るべき学科であるとも考えます。関連する道が多いからこそ、何者にでもなれるのが強みです。見通しのないその場の興味でも、貫けば自ずと正解になると信じています。経験と知識と価値観を養えたのは、本学の学生をはじめ、多くの教授・職員と関わらせていただいたことに間違いありません。この場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

（経営学部経営学科四年）

大学院経営学研究科修士課程を修了して

大学院での二年間

安部雅美

安部雅美

私は、税法を勉強できる大学院を探すにあたって最も重視したのは、大学院の立地と仕事との両立ができるカリキュラムになっているかという点でした。そして、その条件に当てはまる大学院の説明会等に参加していたのですが、本校での個別面談で、研究計画書の書き方やテーマの探し方を具体的にお話ししてくださり、このように丁寧に指導してくださる先生がいらっしゃる大学院であれば、仕事と学業を両立し、修士論文を仕上げることができると感じ、本校への入学を希望しました。

一年次のときは、授業、修士論文のテーマ決め、資料収集と忙しく毎日を過ごしました。当初は、研究計画書のテーマで修士論文を作成する予定でしたが、より実務に近いテーマで作成することが将来の仕事に役立つと考えたため、途中で変更することにしました。私は小規模の個人事務所に勤務しているのですが、裁判というと大企業や大きな取引ばかりを想像していたので、自身の仕事内容と少し離れたものというイメージがありました。

しかし、判例研究の授業で様々な判例に触れるにつれ、普段仕事で関わっている内容も多く含まれていることを知り、私にとって身近なテーマに変更しました。その際は、所属ゼミの三関先生から注意点や方向性などの丁寧なアドバイスいただき、そのおかげで二年次では順調に修士論文を作成することができたと思っています。

同期の方は、主に税理士事務所や税理士法人に勤務されている方々でしたが、その仕事内容は多岐にわたっており、授業でディスカッションした際は、それぞれの実務経験に基づく意見を聴き、とても刺激を受けました。大学院に進学した理由は、修士論文を作成することではありましたが、税理士試験の勉強だけでは得られない知識、知見を得ることができ、貴重な時間を過ごすことができたと感じています。

仕事と学業の両立は簡単ではありませんでしたが、無事修士論文を書き終え、充実した二年間となりました。先生方、同期の皆様、大変お世話になりました。今後は、本校で学んだことを実務で活かし、日々前進していきたいと思います。

（令和8年　経営学研究科経営学専攻終了）

学び直しから始まった大学院生活

莫定鋼（モクテイコウ）

莫定鋼

私が日本で大学院に進学することを決意した背景には、幼い頃から日本文化への関心と、日本で学びたいという長年の思いがありました。地元・香港にいた頃には日本語学校にも通い、言語だけでなく、人々の価値観や社会の仕組みを実際に日本で学び、理解したいと考えるようになりました。

三年前、後悔のない選択をしたいという思いから、銀行員の仕事を辞めて留学を決意し、日本に来ました。留学生活を送る中で、自分の将来やキャリアについて改めて見つめ直すようになり、ビジネスに関する専門知識を体系的に学び直す必要性を強く感じるようになり、日本で大学院進学を目指すことにしました。

東京富士大学大学院を知ったきっかけは、外国留学生向けの進学フェアでした。当日は多くの大学の資料を集めましたが、本学は研究だけでなく、実務に直結する理論や知識を重視している点が印象的でした。社会人経験を持つ学生にも配慮されたカリキュラムであると感じ、自分に最も合った学習環境だと考え、挑戦の気持ちで出願しました。合格の知らせを受け、本学の学生となれたことは大きな喜びでした。

入学当初は、日本人学生が多く、授業もすべて日本語で行われるため、専門用語や授業のスピードについていけず、不安を感じることもありました。しかし、少人数制の授業の中で、教授の方々は常に丁寧に指導してくださり、質問もしやすい環境でした。そのおかげで、徐々に授業内容を理解できるようになり、日本語力も大きく向上しました。

また、クラスメートも外国留学生である私に積極的に声をかけてくれ、学業だけでなく、日常生活においても多くの支えを得ることができました。就職支援や留学生担当の先生方のサポートも手厚く、安心して大学院生活を送ることができました。少人数の環境だからこそ、日本人学生との距離も近く、日本社会への理解を深める貴重な経験となりました。

この二年間の大学院生活を通じて、日本で学び続けてきた自分の選択は間違っていなかったと感じています。日本社会への理解が深まり、日本で働き、生活し続けたいという思いがより一層強くなりました。今後もこの経験を生かし、日本で新たな挑戦を続けていきたいと考えています。

（令和8年　経営学研究科経営学専攻終了）

支部支会報告

少林寺拳法部雄峯会
会長　本間羚次

本間羚次

今年度も、学校当局と学友会のご協力により、4月7日オリエンテーションに参加させて頂きました。当日入部が有力と思われる新入学生、数名いまして間違いなく1名は確実と思われる方もいました。

後日その方から話があり、入部手続をし、本部にも登録が完了し、練習しております。練習日は、毎週木曜日午後4時から6時迄行っております。幸い学校が長い休み（夏季休み）等の時には、雄峯会の練習の日として午後2時から4時まで本館地地下一階武道場を使用させて頂きOB部員7名～10名と現役2名合わせて練習させて頂いております。今年も現役学生が1名入部し2名になりました。毎年1名づつでも良いので入部者がいればと楽しみにしております。当人は6月21日校友会総会当日準備等の手伝いに来ていまして、顔合わせをしました。

今年度も例年の通り、10月26日（日）開催の東京富士祭に参加させて頂き、雄峯会・少林寺拳法部による演武会を挙行することが出来ました（当日は天候が雨模様だったので五号館一階中央広場利用）演武会の後、校友会主催の講演会（会場メディアホール）が行われました、講師は（株）熊谷組元会長・大田弘氏の講演で、―黒部ダム建設に学ぶリーダーのあり方―を聴き感動いたしました。その後十数名で反省会をやりました。

12月7日（日）東京新橋の新橋亭に於いて、毎年恒例となっております忘年会を午後3時から行われました。今年も東京富士大学理事長で少林寺拳法部初代の部員でありました、二上映子先生にご出席を頂きました。また部1期生の鈴木正輝氏、田島博政氏等々を含め16名の出席のもと楽しく年忘れ会を行いました。

（昭和四十一年　経済科二部）

雄峯マネジメント研究会
会長　森川　昇

森川　昇

我々の会は、年四回、三カ月毎に例会を開いています。事業年度は、六月一日から翌年五月三一日までの一年間であります。

まず、六月に総会があり、九月、一二月、二月の第1金曜日に例会を開いて、会則第二条にあるマネジメントの研究を中心に、会員の交流で親睦と情報交換を図っています。

今年の活動報告ですが、六月六日（金）高田馬場の「清流」において定時総会を開催した。第一部が総会、第二部が懇親会と二部構成でおこないました。　第一部の定時総会は、①令和六年度事業報告承認の件　②令和六年度収支決算報告承認の件　③令和7年度事業計画（案）承認の件　④役員改選の件が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。

役員改選では新会長に森川会員が事務局長に松原会員が選任されました。　第二部は引き続いて「清龍」で懇親会をおこないました。少ない出席者でしたが大いに盛り上がりました。　令和七年九月五日（金）の例会では、テーマとして「選択的夫婦別姓制度」についてであった。いろいろビジネスで不都合と言っているが、夫婦同姓のまま旧姓を使用できる。現在の日本では戸籍上で改姓しても、銀行口座開設や印鑑証明（登録）、運転免許証、マイナンバーカード、パスポート取得の際に旧姓使用、もしくは旧姓併記が可能であり、日常生活の中ではほぼ不都合はありません。

選択的夫婦別姓制度は、強制的親子別姓である、極論を言うとこの法律は、日本の国を弱体化する法律であると思う。

校友の皆様も一考してみてはいかがでしょうか。

最後になりますが我が雄峯マネジメント研究会は、昭和五五年六月に設立され四十五年間活動してきましたが、会員の高齢化や新規入会者の著しい減少により、これ以上活動を続けていくことが困難な状況となり、令和七年九月五日の定例会で活動休止の決定をしました。これまで、校友の皆様には何かと応援いただきありがとうございました。

（昭和47年　企業経営学科二部）

東京富士大学　会計人会

会長　若狭茂雄

令和七年より会計人会の活動が正常に戻り、各大学友好会計人会との総会及び懇親会等での親睦を深められる状態になりました。友好会計人会との総会懇親会に参加

駿台会計人会
令和七年四月一日（土）
中央大学会計人会
令和七年六月二四日（火）
青山学院大学会計人会
令和七年七月一日（火）
日本大学会計人会
令和七年七月一八日（金）
専修大学会計人会
令和七年七月二十五日（金）

若狭茂雄

慶応義塾大学三田会
令和七年九月二十二日（月）
法政大学会計人会
令和七年九月二十四日（水）
早稲田大学稲門会
令和七年八月三〇日（土）
明治大学駿台会計人会
令和七年一二月八日（月）

全国大学会計人会サミット
京都の立命館大学にて開催
令和七年十一月二二日（土）
サミット会議 立命館大学
孔雀キャンパス
テーマ　大学会計人会が行う活動と大学との関わりについて
東京富士大学会計人会参加者
若狭茂雄会員
懇親会　ホテルオオクラ京都
令和八年のサミットの幹事校は大阪関西学院大学開催予定

税理士合格祝賀会開催
令和七年四月五日（土）
東京富士大学大学院教室
合格者
丹沢翼、原田和明、石田和弘
三好達也、山口洋、鈴木芽生
山田久子、
記念品贈呈とお祝い金を各自に贈呈
その後合格者及び大学教授と会計人会会員と石庫門にて祝賀会
祝賀会参加者　合格者三名、教授五名、会計人会会員九名
令和八年度の合格祝賀会開催は四月四日（土）予定しています。

（昭和41年　経済科二部）
（平成16年　経済学部夜間主）

俳句

篝火

関　實

年立つや　遺影の微笑み　変らざる
梅一倫　わが来し道の　朝の冷え
卒業歌　窓外で聞くや　春の風
空さわぐ　桜の下で　立ち止まる
新緑や　書類の山に　風通る
昼の海　夜は宿窓　天の川
踊り果て　下駄を止めれば　水の町
篝火の　消えて川幅　夜となりぬ
城遠く　湯音ばかりの　夜長かな
落葉踏む　音の軽さよ　年を知る
朝寒の　橋杭岩を　探検せり
小春日の　今年も余日　年の市

（昭和36年　経済科二部）

俳句

鰯雲

大原　芳村

新入社員かたまり動く部屋の中
鰯雲子の行く末のいかばかりか
新入社員初めて我に笑ひたる
草笛や父に従ふ小鮒釣り
正座して帯締め直す寒稽古
畦塗の鍬照り返す開田村
林檎齧る瑞瑞しきは子の歯形
刈り伏せし草の温みに腰下す
鈴虫を鳴かせ守衛の無愛想
炎天や麒麟首より駆けて来る
母在りし日に以て故郷柿たわわ
土手焼きて戻れば犬に嗅がれけり

（昭和50年　企業経営学科二部）
（一九四六年～二〇二〇年）

川柳

八雲

藤井　直

神国を八雲に試さすキリシタン
信・秀よりも家康評価八雲なり
伴天連はラテン言葉で生き延びる
砲撃で幕軍輔くオランダ人
砲弾四百二十六発炸く島原城
キリスト教容黙認は六十五年
英米の教養ありて八雲あり
日露戦始まってから八雲逝く
神でなし個人でもなく悩む漱石
漱石も第一次大戦超えられず
正義にはフェミニズムは入るのか
フェミニズム正義に入るは文化と成り

（昭和42年　経済科）

校友の声

図書館で始まった、もう一度の挑戦

田代伸子

完全退職したとき、「さて、これからの時間をどう使おうか」と考えていた私の前に現れたのが、「北区図書館活動区民の会」でした。活動拠点となる北区立中央図書館は、100年前の赤レンガ建築にガラス張りの近代建物がぴたりと寄り添うという、まるで歴史と未来が肩を組んで立っているような素敵な図書館です。「区民の会は〝図書館と区民が協働でつくる〟という、全国でも珍しい仕組みで動いています。先日、教育委員の先生が視察に来られたときも、「こんな団体が実在するとは…」と目を丸くしておられました。どうやら私たちは、知らぬ間に〝レアキャラ集団〟になっていたようです。

「区民の会」には、子どもとユニバーサルの2つのサービスの部会と2つの研究会があり、それぞれが実に活発でスキルも高いのですが、横のつながりは驚くほど薄い。同じ建物で活動しているのに、別々の島で暮らしているような感じです。あるとき「区民の会たより」というニュースレターを配ってほしいとお願いしたところ、「なんですか～それ？」と迷惑そうに返され、私は胸の中でそっと崩れ落ちそうになりながら「関係ないこと、ないでしょ！」と心の中で大声で叫びました。

そんな〝離れ小島状態〟の私たちが、今年ついに一つにまとまりました。きっかけは、小学生向けの図書館ナイトツアー。暗い館内を懐中電灯片手に歩きながら、館内を探検します。ところどころに仕掛けがあり、その一つが創立当時の〝手漉きガラス〟を探すという、ちょっとした冒険企画です。ところがこのガラス、懐中電灯を当てるとどれもこれもキラキラして見えてしまうのが難点で、説明員の大人たちが「えーと、この一枚が…たぶん…」と首をかしげる横で、子どもたちは「これじゃない？」「いや、こっちもきれい！」と大盛り上がり。私も一緒にうろたえながら、「ここは明るいときにまた見に来てね…」と心の中でつぶやいていました。それでもツアーは大成功で、アンケートには「めちゃくちゃ面白かった！」、付き添いの親御さんからは「盛りだくさんでびっくりしました」と嬉しい声が届きました。カオスの中で笑いながら協働する――これこそが区民の会の魅力なのだと、改めて感じた夜でした。

大学を卒業した頃には、まさか人生の後半でこんな〝学び直し〟が待っているとは想像もしませんでした。若い頃に身につけた「調べる」「考える」「人と関わる」という姿勢が、図書館という場で再び息を吹き返しています。学びにはどうやら賞味期限がないようです。

これからの学生の皆さんにも、どうか安心してほしいと思います。大学での学びは、すぐに役に立たなくても、人生のどこかで必ず回収されます。懐中電灯を持って図書館を走り回る日が来るかもしれません。そんな未来も、悪くありません。ともに頑張りましょう！

（昭和54年　経済科）

北区区立中央図書館

訃　　報

東京富士大学校友会顧問　佐藤雄一郎　会員は令和７年４月２１日逝去されました。享年９１でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

略歴

昭和２３年　白河町立白河商業学校五年次卒業 同年白河税務署採用　昭和２４年　青森県黒石税務署　同２７年浅草税務署　同２７年家事都合により退官

昭和２８年　税理士試験に当時全国最年少で（２２歳）で合格

昭和２９年　佐藤雄一郎税理士事務所（現税理法人大手門会計）を開設

昭和４４年　不動産鑑定士特例試験に合格 同４６年　東北総合鑑定所（福島県知事登録第一号）開設

昭和４７年　福島地方裁判所鑑定委員 同４８年　民事調停委員　司法委員

昭和阿４９年　富士短期大学通信教育部経済学科入学　同５２年卒業

平成７年～平成１１年　　東北税理士会副会長　同福島県支部連合会会長

平成２１年　学校法人富士大学理事長に就任

平成１３年　税理士功労により黄綬褒章受章

そのほかに、日本税理士会連合会長、東北税理士会長、白河税務署長、仙台郵便局長、福島県知事、東北税理士会福島県支部連合会長などから感謝状受領。
阿武隅川西郷村台上地区の桜並木の発起人となり、鈴木市長に記念碑を建立していただいたことは、故人にとって最後まで大きな誉となった。

東京富士大学校友会顧問　倉橋清文　会員は令和８年１月１５日逝去されました。享年９２でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

略歴

昭和３３年３月	富士短期大学経済科２部卒業
昭和３５年５月より３９年５月	新宿区　東洋実業株式会社勤務
昭和３８年１２月	税理士試験合格　同３９年２月２１日　税理士業開業
昭和４０年６月より４４年６月	東京税理士会　理事
昭和４４年６月より平成９年６月	東京税理士会　副支部長　支部長
	常務理事　指導部長　総務部長
	業務侵害監視特別委員会　委員長　相談役
平成３年７月より平成９年７月	日本税理士連合会　理事　常務理事
昭和４６年５より月昭和６２年５月	東京税理士協同組合　理事　常務理事　購買部長
平成８年５月より平成１１年５月	東京税務会計事務所健康保険組合　理事長　顧問
平成１１年５月より平成１４年５月	東京税理士共同組合　専務理事　相談役
平成１６年１１月３日	内閣総理大臣より日本国天皇からの旭日小綬章授与される。

令和7年度　学園行事

●４月
入学式（４／３ 二上講堂）
新入生オリエンテーション（４／７ 二上講堂）
教員懇話会（４／11）
第57回東京都大学ソフトボール連盟春季リーグ戦（２部）
兼文部科学大臣杯第６０回全日本大学ソフトボール選手権大会東京都一次予選会（４／12～５／10 大田スタジアム他）
東京富士大学　14－１　学習院大学
東京富士大学　16－０　東洋大学
東京富士大学　17－０　桜美林大学
東京富士大学　18－０　慶應義塾大学
４勝０敗
優勝決定戦
東京富士大学　18－０　中央大学
２部リーグ優勝

●５月
文部科学大臣杯第６０回全日本大学ソフトボール選手権大会東京都二次予選会（５／３ 東京富士大学総合グランド）
準決勝　東京富士大学　19－０　中央大学
決勝　東京富士大学　６－14　国士舘大学
第57回東京都大学ソフトボール連盟春季リーグ戦１部・２部入替戦（５／11）
東京富士大学　３－１　国士舘大学
１部昇格
創立記念日（５／17）
新入生歓迎企画『球遊祭』（学友会主催）（５／27）
第77回女子全日本総合選手権大会東京都予選会（５／18 町田市民球場）
東京富士大学　０－７　東京女子大学
１回戦敗退

●６月
高田奨学生授与式（６／24）
学生大会（６／30）

●７月
春学期ランチパーティー（７／１ 本館地下一階武道場）
春学期本試験（７／23～29）
第40回東日本大学女子ソフトボール選手権大会（７／５～７ 山梨県北杜市 高根総合グラウンド、武川運動公園、山梨県甲府市 山梨学院砂田ソフトボール場）
東京富士大学　０－10　城西大学
１回戦敗退

●８月
第17回ＨＡＫＵＢＡ ＣＵＰ大学女子ソフトボール大会２０２５（８／19～21 長野県白馬村・白馬村北部グランド、白馬村南部グランド、切久保第二グランド）
予選リーグ
東京富士大学　５－２　城西国際大学
東京富士大学　０－２　東京国際大学
東京富士大学　１－２　金沢学院大学
東京富士大学　９－０　至学館大学
２勝２敗
決勝リーグ
東京富士大学　０－１　大阪体育大学
東京富士大学　１－５　東京国際大学Ｂ
０勝２敗
最終順位９位（参加18チーム）
春学期追試験・未修得試験（８／26～28）

●９月
９月卒業学位記授与式（９月30日）
第57回東京都大学女子ソフトボール秋季リーグ戦（９／21～10／12日東京富士大学日高総合グランド）
東京富士大学　０－７　東京女子体育大学
東京富士大学　０－１　日本女子体育大学
東京富士大学　２－11　日本体育大学
東京富士大学　４－２　早稲田大学
東京富士大学　７－１　東京学芸大学
１勝４敗　５位

●10月
防災避難訓練（１０／２０）
第58回東京富士祭（10／24～27）
１日目　模擬店・展示発表・足湯・野外ステージ・コスプレイベント・新日本書道書友会「関東展」
２日目　模擬店・展示発表・足湯・野外ステージ・新日本書道書友会・校友会公開講演会・少林寺拳法部雄峯会演武会・抽選会
体育祭（10／28 フジアリーナ）

●11月
第56回関東大学ソフトボール選手権大会（11／１～３ 東京都町田市他 町田三輪みどり山球場、町田市民球場、早稲田大学所沢キャンパスグランド、東京富士大学日高総合グランド）
東京富士大学　７－２　国際武道大学
東京富士大学　３－10　順天堂大学
２回戦敗退
ボウリング大会（学友会主催）（11／４ ＢＩＧ ＢＯＸ高田馬場８階 高田馬場グランドボウル）
秋学期ランチパーティー（11／18 本館地下１階武道場）

●12月
学生大会（12／22）

●１月
秋学期本試験（１／20～26）
学生活動奨励賞授与式（１／26 メディアホール）

●２月
成績発表　卒業生対象（２／12）
入学前講座（２／14 二上講堂）
秋学期追試験・未修得試験（２／18～２０）
学位記授与式・卒業記念パーティー（３／20 二上講堂）

令和7年度校友会事業計画

自　令和７年４月１日
至　令和８年３月31日
本年度実施する主な事業

１　講演会開催
日時　令和7年6月21日(土)13時30分～15時00分
場所　東京富士大学本館１Ｆメディアホール
講演会　落語　入船亭扇里　師匠
「落語二題」

２　総会開催
第76回定期総会開催
日時　令和7年6月21日(土)15時10分～16時30分
場所　東京富士大学本館１Ｆメディアホール
議題　Ⅰ　令和６年度事業報告承認の件
Ⅱ　令和６年度収支決算書承認の件
会計監事　監査報告
Ⅲ　令和７年度事業計画（案）承認の件
Ⅳ　令和７年度収支予算（案）承認の件
Ⅴ　その他

３　懇親会
日時　令和7年6月21日(土)17時30分～19時30分
会場　新宿プリンスホテルＢ１Ｆ
「パーティースペースガーネット」
会費　７０００円

４　校友会公開講演会開催
日時　令和7年10月26日(日)13時30分～15時30分
場所　東京富士大学　本館メディアホール
テーマ
「黒四ダム　完成への闘い」

５　会報の作成と配布
会報『雄峯』第64号８００部を作成し、新会員及び会員並びに学校に配布

６　会員名簿の作成
全会員名簿の整理と変更等のメンテナンス

７　入会記念品の配布
新会員に記念品を配布

８　支部・支会の助成及び育成

９　学生行事への助成と交流

10　その他

令和7年度校友会行事録

●４月・・・・・・・・・・・・
●４月３日・・・・
入学式（二上講堂）

●４月・・・・・
会計監査（感染予防対策により自宅にて監査）
１　令和６年度会計監査

●５月１日・・・・
常任理事会（校友会室）
１　令和６年度校友会事業報告及び収支決算について
２　令和７年度校友会事業計画（案）及び収支予算（案）について
３　定期総会・講演会について
４　その他

●５月・・・・・・・・・・
●５月15日・・・・
委員会・理事会（校友会室）
１　令和６年度校友会事業報告及び収支決算について
２　令和７年度校友会事業計画（案）及び収支予算（案）について
３　定期総会・講演会について
４　その他

●６月・・・・・・・・・・
●６月21日・・・・
第76回定期総会
①　講演会
会場　東京富士大学本館１Ｆメディアホール
講演会　落語　入船亭扇里　師匠
「落語二題」
②　総会
会場　東京富士大学本館１Ｆメディアホール
議題
１　令和６年度事業報告承認の件
２　令和６年度収支決算書承認の件
会計監事　監査報告
３　令和７年度事業計画（案）承認の件
４　令和７年度収支予算（案）承認の件
５　その他
③　懇親会（17時30分～19時30分）
会場　新宿プリンスホテルＢ１Ｆ
「パーティースペースガーネット」

●７月・・・・・・・・・・・
●７月24日・・・・・
理事会（校友会室）
１　東京富士祭における事業について
２　その他

●８月・・・・・・・・・・・
●８月21日
常任理事会「イタリアンレストランＳａｌｕｔｅ」
１　東京富士祭における事業について
２　その他

●10月・・・・・・・・・・
●10月26日・・・・
東京富士祭　校友会公開講演会
テーマ
「黒四ダム　完成への闘い」

●３月・・・・・・
常任理事会
１　総会運営について
２　総会講演会について
３　役員改選について

●３月20日・・・・
学位記授与式（二上講堂）

令和6年度校友会特別会計収支決算書

自　令和　6年　4月　1日
至　令和　7年　3月31日

1.収入の部

（単位：円）

項　目	予算額	決算額	比較増減	摘　要
1．繰入額	0	0	0	
2．預金利子	500	68	△ 432	
3．賛助寄付収入	200,000	303,000	103,000	賛助寄付金
計	200,500	303,068	102,568	

2．支出の部

（単位：円）

項　目	予算額	決算額	比較増減	摘　要
1．賛助寄付諸経費	150,000	180,264	30,264	郵便振替手数料
2．一般会計繰入金	0	0	0	
計	150,000	180,264	30,264	

3．特別積立金累計額　　6,630,180　円

特別会計財産目録

1．預貯金

（単位：円）

種　類	金　額	金融機関名等	摘　要
現　　金	633	現金手許有高	
定期預金	4,112,354	三菱UFJ銀行・高田馬場支店	
振替貯金	2,517,193	東京貯金事務センター	
計	6,630,180		

上記の通り報告します。
令和7年4月9日

東京富士大学校友会・会長　八城一夫

上記監査の結果相違ないことを認めます。

会計監事　清水かほる　印
同　高橋節男　印

令和７年度　東京富士大学校友会一般会計収支予算書(案)

自　令和　7年4月　1日
至　令和　8年3月31日

1．収入の部

（単位:円）

項　目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
1．前年度繰越金	6,435,337	4,908,992	1,526,345	前年度繰越金
2．入会金	1,155,000	1,325,000	△ 170,000	入会金　@5,000×231名
3．会　費	1,155,000	1,325,000	△ 170,000	会費　@5,000×231名
4．特別会計繰戻金	0	0	0	
5．雑収入	100,010	100,010	0	
（1）預金利息	10	10	0	
（2）その他	100,000	100,000	0	御祝金等
計	8,845,347	7,659,002	1,186,345	

2．支出の部

（単位：円）

項　目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
1．総務費				
（1）会議費	300,000	300,000	0	総会、理事会、委員会等
（2）事務費	30,000	30,000	0	
（3）通信費	400,000	400,000	0	総会通知等
（4）印刷費	200,000	200,000	0	総会関連印刷費
（5）備品費	0	0	0	
（6）慶弔費	100,000	100,000	0	卒業祝金 等
（7）入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,030,000	1,030,000	0	
2．事業費			0	
（1）研究会費	100,000	100,000	0	東京富士祭
（2）会報作成費	800,000	800,000	0	『雄峯』第64号制作費
（3）会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿ﾒﾝﾃﾅﾝｽ
（4）通信費	60,000	60,000	0	研究会案内 他
事業費支出計	1,020,000	1,020,000	0	
3．助成金			0	
（1）支部活動助成金	60,000	60,000	0	福島県支部・岩手県支部
（2）支会活動助成金	80,000	80,000	0	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会・ほたび会
（3）学生活動賛助金	50,000	50,000	0	東京富士祭
助成金支出計	190,000	190,000	0	
4．予備費	6,605,347	5,419,002	1,186,345	
支出の部合計	8,845,347	7,659,002	1,186,345	
次年度繰越金	0	0	0	
計	8,845,347	7,659,002	1,186,345	

令和 7 年度校友会特別会計収支予算書(案)

自　令和　7年4月　1日
至　令和　8年3月31日

1.　収入の部

（単位：円）

項　目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
1．繰入額	0	0	0	
2．預金利子	3,000	500	2,500	
3．賛助寄付収入	0	200,000	0	
計	3,000	200,500	0	

2．支出の部

（単位：円）

項　目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
1．賛助寄付諸経費	0	150,000	0	
2．一般会計繰入金	0	0	0	
計	0	150,000	0	

3．特別積立金累計額　　6,633,180 円

令和6年度　東京富士大学校友会一般会計収支決算書

自　令和　6年4月　1日
至　令和　7年3月31日

1．収入の部

（単位：円）

項　目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	摘　要
1．前年度繰越金	4,908,992	4,908,992	0	前年度繰越金
2．入会金	1,325,000	1,325,000	0	入会金　@5000×265名
3．会　費	1,325,000	1,325,000	0	会費　@5000×265名
4．特別会計繰戻金	0	0	0	
5．雑収入	100,010	33,202	△ 66,808	
（1）預金利息	10	3,202	3,192	
（2）その他	100,000	30,000	△ 70,000	お祝金
計	7,659,002	7,592,194	△ 66,808	

2．支出の部

（単位：円）

項　目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	摘　要
1．総務費				
（1）会議費	300,000	214,228	△ 85,772	総会、理事会、委員会等
（2）事務費	30,000	29,326	△ 674	
（3）通信費	400,000	60,851	△ 339,149	総会通知等
（4）印刷費	200,000	26,682	△ 173,318	総会関連印刷費他
（5）備品費	0	0	0	
（6）慶弔費	100,000	50,000	△ 50,000	お祝金
（7）入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,030,000	381,087	△ 648,913	
2．事業費				
（1）研究会費	100,000	76,321	△ 23,679	東京富士祭・研究会 関連費用
（2）会報作成費	800,000	472,941	△ 327,059	『雄峯』第63号制作費用
（3）会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿ﾒﾝﾃﾅﾝｽ
（4）通信費	60,000	35,345	△ 24,655	研究会案内等
（5）印刷費	0	21,163	21,163	
事業費支出計	1,020,000	665,770	△ 354,230	
3．助成金				
（1）支部活動助成金	60,000	0	△ 60,000	岩手県支部・福島県支部
（2）支会活動助成金	80,000	60,000	△ 20,000	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会
（3）学生活動賛助金	50,000	50,000	0	東京富士祭賛助金
助成金支出計	190,000	110,000	△ 80,000	
4．予備費	5,419,002	0	△ 5,419,002	
支出の部合計	7,659,002	1,156,857	△ 6,502,145	
次年度繰越金	0	6,435,337	6,435,337	
計	7,659,002	7,592,194	△ 66,808	

一般会計財産目録

令和7年3月31日現在

1．現金預金　等

（単位：円）

種　類	金　額	金融機関名等
現　　金	55,516	現金手許有高
普 通 預 金	6,709,601	三菱UFJ銀行・高田馬場支店
小　計	6,765,117	
未　払　金	329,780	㈱コーエー『雄峯』第63号印刷代
小　計	329,780	
差引正味財産	6,435,337	

2．電話加入権

（単位：円）

電話番号	金　額	取得年月日
03（3362）4565	72,800	S61.11

3．備品

（単位：円）

品　名	数　量	取得金額	取得年月
書庫	1	14,000	S61.01
会議用長机	1	17,000	S61.01
椅子	10	18,900	S61.01
白板	1	23,400	S63.06
書類棚	2	36,000	H06.11
会議用テーブル	1	66,950	H08.09
椅子	10	82,400	H08.09
パソコン一式	1	855,352	H09.03
計	27	1,114,002	

上記の通り報告します。　令和7年4月9日

東京富士大学校友会・会長　八城一夫

上記監査の結果相違ないことを認めます。

会計監事　清水かほる　印
同　高橋節男　印

東京富士大学 校友会会則

第1章　総　則

第1条（名称）
本会は、東京富士大学校友会と称する。
第2条（本部の所在地）
本会は、本部を東京富士大学内に置く。
第3条（目的）
本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。
第4条（事業）
本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
1．各種研究会及び親睦会の開催
2．会報の作成及び配布
3．会員名簿の作成及び配布
4．その他必要な事項
第5条公（会員）
本会の会員は、次の者からなる。
1．普通会員、東京富士大学及びその前身校の各卒業者、並びにこれらにかつて在学し、入会を希望する者
2．特別会員　前項における現旧職員

第2章　役　員

第6条（役員）
一．本会に、次の役員を置く。
1．会長　1名
2．副会長　5名以内
3．常任理事　20名以内
4．理事　50名以内
5．委員　各同期生より10名以内
6．会計監事　3名以内
7．事務局長　1名
二．前項の規定にかかわらず、各支部及び支会より委員若干名を置くことができる。
第7条（役員の選出）
役員は、次により選出する。
1．会長は、普通会員の中から総会において選出する
2．委員は、各同期生、各支部及び支会の会員の互選による
3．理事・会計監事は、委員会において委員の中から互選する。但し、会計監事は理事を兼ねることができない
4．副会長・常任理事及び事務局長は、理事会の議を経て理事の中から会長が委嘱する。
第8条（会長・副会長）
1．会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2．副会長は、本会を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。
第9条（常任理事・理事）
1．常任理事は、会長及び副会長に協力し、会務を分担する。
2．理事は、理事会を構成する。
第10条（委員）
委員は、委員会を構成し、その会務を掌理する。
第11条（会計監事）
会計監事は、会計事務を監査し、その結果を総会に報告する。
第12条（事務局長）
事務局長は、事務を掌理する。
第13条（役員の任期）
1．役員の任期は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2．役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第3章　機　関

第14条（委員会）
委員会は、次に掲げる事項を決定する。
1．理事・会計監事の選任
2．会務運営に関する基本的事項
第15条（理事会）
一．理事会は、会長及び理事をもって組織する。
二．理事会は、次に掲げる事項を決定する。
1．総会及び委員会に提出すべき議案
2．会務の執行に関する事項
3．総会の決議事項であっても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならない。
三．理事会は、会長が招集し、議長は出席者の中から互選する。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
四．前項の規定は、第14条に準用する。
第16条（総会）
定期総会は、毎年6月とし、臨時総会を必要とする場合は、理事会の議を経て開催することができる。
第17条（招集）
総会の招集は、会長がこれを行い、会日の1週間前までに、日時・場所及び議案を記載した書面により、会員にその通知をしなければならない。
第18条（議長）
総会の議長は、出席者の中から互選する。
第19条（議決の要件）
総会の議決は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
第20条（委任による議決権の行使）
1．会員で総会に出席することができない者は、あらかじめ議案について賛否の意見を明らかにした書面をもって、出席する会員に委任して、その議決権を行使することができる。
2．前項の規定により議決権を行使した議決の数は、前条の規定による出席者に算入する。
第21条（総会で決定すべき事項）
1．事業報告及び事業計画の承認
2．予算及び決算の承認
3．会長の選出
4．本会の重要な財産の取得及び処分に関する事項
5．本会会則の変更
6・その他会務に関する重要事項
第22条（議事の制限）
総会においては、第21条の議案以外の事項を決定することができない。
第23条（事務局）
1．本会に事務局を置く。
2．事務局は、細則で定めるところにより事務を処理する。
3．会長は、事務局員若干名を委嘱することができる。
第24条（名誉会長）
1．本会に名誉会長を置くことができる。
2．名誉会長は、会長が総会の承認を得て委嘱する。
3．名誉会長は、理事会及び委員会に出席して意見を述べることができる。
4．名誉会長の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。
第25条（顧問、相談役及び参与）
1．本会に顧問、相談役及び参与を置くことができる。
2．顧問、相談役及び参与は、本会に特別の功績があった者のうちから、理事会の決議を経て会長が委嘱する。
3．顧問、相談役及び参与は、理事会に出席して意見を述べることができる。
4．顧問、相談役及び参与の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。

第4章　会　計

第26条（入会金）
普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。
第27条（会費）
普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。
第28条（臨時会費）
臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。
第29条（会費等の不返還）
入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。
第30条（経費）
本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもってこれに充てる。
第31条（財産の管理）
本会の財産は、会長が管理する。
第32条（予算の執行）
本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。
第33条（会計年度）
本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章　雑　則

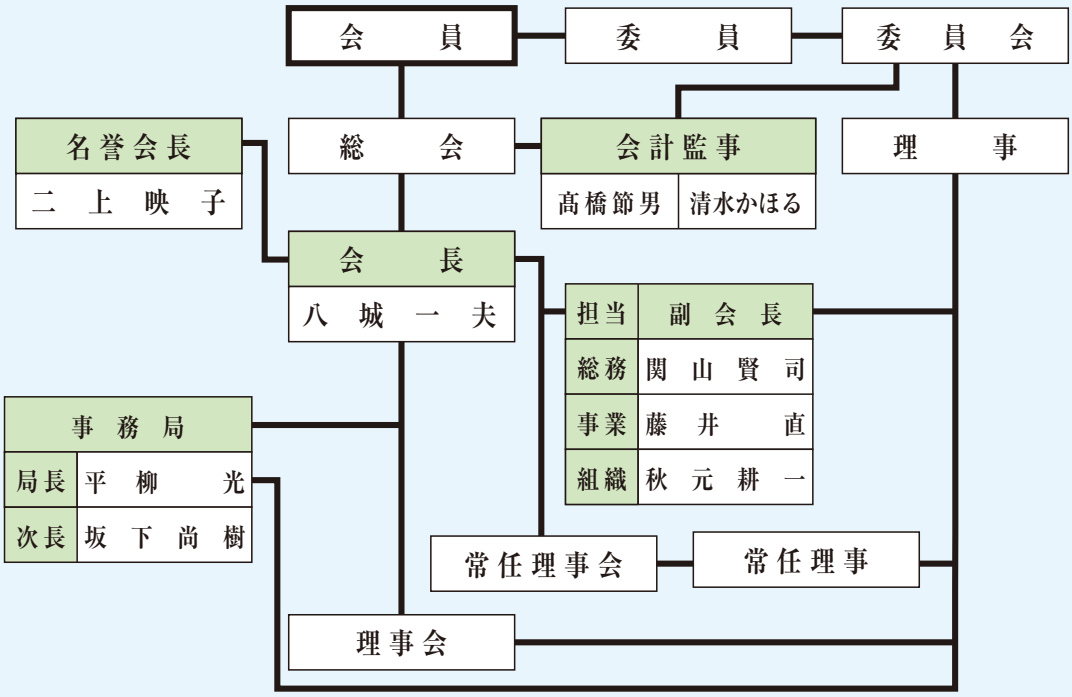
第34条（届出の義務）
1．会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があった場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならない。
2．前項の届出を怠った場合、及び第27条の会費を納入しない場合は、本会よりの通知文書等の送達を省略しても、本会の責任とならない。
第35条（細則）
本会の規定により手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。
付則　この会則は、昭和60年6月30日より実施する。
一部改正、平成11年6月19日施行。
一部改正、平成15年6月28日施行。
一部改正、平成18年6月24日施行。
一部改正、平成21年6月27日施行。

会務分掌等に関する規定

本会役員の分掌分担等に関する事項を、会則第35条の規定により、次のとおり定める。

第1条　常任理事会は、会長、副会長及び常任理事をもって構成し、理事会に提出すべき議案の決定並びに会務執行その他必要な事項について協議する。
2．会則第15条第二項第3号の規定は、前項の場合に適用する。
第2条　本会の事務局に次の部を置き、常任理事（以下担当理事という）が分掌する。但し、副会長若しくは、常任理事会の議を経て会長が委嘱する理事が分掌することを妨げない。
一、総務部
二、事業部
三、組織部
第3条　総務部においては、委員会、理事会及び総会に関する事項並びに財務処理に関する事項のほか、他の部に属さない一切の事務を処理する。
但し、前条に規定する事業部及び組織部において会務を行うことができない事由がある場合には、総務部において会務を行うことができる。
第4条　事業部においては、会則第4条の規定に基づき、各種研究会（法律、会計、簿記、経済、経営等の各部門）及び親睦会の開催、会報の作成及び配布、その他必要な事項を行い、本会の目的を達成する。
第5条　組織部においては、会員名簿の作成及び配布、会員の増大に対処して、相互の有機的交友関係を図るとともに支部及び支会を積極的に助成し、本会の基礎を強化する。
第6条　本会の事務局に事務局次長を置き、これに補佐させることができる。
2．各部に部長を置き、部長はその会務を掌理する。
3．事務局次長、各部の部長及び担当理事は常任理事会で協議して定める。
4．会則第15条第二項第3号の規定は前項の場合に適用する。
第7条　本会の会議を開催した場合は、議事録を作成し、議長及び議長の指名する議事録署名人2名が署名しなければならない。
2．前項の議事録は、総務部において保存しなければならない。
第8条　本会は次の基準により支部及び支会を設置することができる。
1．各都道府県に支部を組織するとき。
2．各域等の会員約30名以上で支会を組織するとき。
付則　この規定は昭和57年9月5日から実施する。
一部改正、平成18年6月24日施行。

令和7年度校友会事務組織・分担表



顧問
石井末之進
関實
若狭茂雄
本間羚次
森川昇

相談役
谷康昌
北爪登

常任理事		
総務部長	事業部長	組織部長
青野貴礼	大泉浩三	阿部國茂
中鉢けい子	三津石真知子	田野美佳
渡邊漸	折笠信子	持丸貴美子
矢部友里	田中千枝子	鴨下一
	小荷田政史	奥山飛雄馬

理事		
蟹江雅子	千葉公兀	鈴木元
鈴木健治	平常章	對馬昭次
堀越宏次	松井幸和	平田友孝
松岡めぐみ	久下賢二	三坂功
関根康雄	宇宙聡	大畑竹宣
牧野真理子	岩瀬祐之	長谷川祥平
落合恒彦	土橋廣義	岩中多枝子
大沼洋子	江藤かすみ	

（令和8年3月20日現在）

令和7年度寄付の報告

校友の皆様には校友会の現状を理解していただき、令和7年度も以下のとおりご厚意をお受けすることが出来ました。

大変ありがとうございました。

校友会を代表いたしまして心よりお礼を申し上げます。

（校友会会長　八城一夫）

寄付者一覧表

片野節男　様

高橋節男　様

（五十音順）

東京富士大学校友会 第77回定期総会のお知らせ

日　時　令和8年 6 月20日（土）

総　会　午後1時00分～4時30分
（講演会も予定されています）

会　場　東京富士大学　本館1階　メディアホール

懇親会　午後5時００分～7時００分
（懇親会からでも参加できます）

会　場　新宿プリンスホテル 地下1階 パーティースペースガーネット
今春卒業された方の会費は無料です

東京富士祭校友会 令和８年度研究会のお知らせ

日　時　令和８年10月26日（日）予定
午後１時３０分～３時３０分

会　場　東京富士大学　五号館
演題・講師は未定

編集後記

●イタリアのミラノ・コルチナ冬季オリンピックでは、若い日本人選手が活躍し多くのメダルを獲得して注目を集めました▼また、二上名誉会長のお取り計らいにより、株式会社熊谷組元会長の大田弘様に「黒部ダム」建設のお話をお聞きすることができ、現場のリーダー論・経営者のリーダー論を学びました▼その他お忙しいところご寄稿いただいた皆様・会報誌の発行のために編集活動に励んだ皆様、ありがとうございました▼母校は、教育研究及び地域貢献活動に寄与するプロジェクトや学生のスポーツ活動・課外活動への活性化支援などを目的としたプロジェクトに必要な資金を確保する手段の一つとして「きずな募金」を開設し寄附金を募っております。皆様の応援をお願いいたします▼大泉浩三事業部長、平柳光事務局長の頑張りで、無事『雄峯』第64号は仕上がりました。これまでの努力に万感の思いを込めて感謝申し上げます。

八城一夫

●編集委員に携わり9回目になります。雄峯64号発行準備として委員会方針に沿ってそれぞれに原稿依頼を行い、1月中旬の期限までにすべて提出して頂きました。それぞれのポジションでの想いや、活動経過内容が良くまとめられていると感心いたしました。ご協力を感謝申しあげます▼特集、黒四ダム建設につきまして、映画テレビ等で一応は観て内容は大体知っているつもりでありましたが、今回メディアホールでの熊谷組・元会長 大田弘氏の講演を身近で拝聴させていただき感激しました。関電トンネルとして電気バスが運行しております。その途中に破砕帯があり長野県富山県の境目があり、バスで20分弱、出口側は雄大な景色の黒部ダムが迎えてくれています▼今年の夏はぜひ扇沢から電気バスに乗りダムに行ってみたいです▼編集委員の皆様たいへんお忙しい中お疲れさまでした。

大泉浩三

●この度、編集委員に任命されました、鴨下です▼先ずは、編集委員会に出席して感じましたことは、実働の委員が少ないと思いました。更なる増員が必要であると思いました。さて、今号特集の黒四ダム講演での今から70年前に始まったトンネル工事で「笹島信義」氏率いる、1500名の作業集団を適時配置し難工事を成し遂げたこと、其れはそれは凄いことだと感じました。初めて編集の内容に携わり、編集の仕事を教わり協力出来ることから、やっていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

鴨下　一

●水力主火力従の戦前の電力供給体制から、九電力火主水従の体制への変革を成就させた、電力界では戦後復興と新規増設の産業界からの急激な需要拡大に際して、火力主の中で、応じる際にピーク時の調整役割を果たせるのは水力のみであった。これには年間を通じて、いざという時に何時(いつ)でも使えるだけの大規模貯水池を持つ発電所、つまり

火力発電所のピークの電力需要に年間を通じて即対応できる性格と規模を保持するというのが関西電力の初代社長太田垣士郎氏による選定であった▼阪急電鉄の社長であったものを小林一三氏による抜擢であったと謂うことである。リーダーは常に得意先企業の需要に量と質で最善の供給ができることが組織存立の理由であると考えている人なのだということがよく分る▼母校のことで頭に浮かぶのは先輩達の活躍についてであります。大世学院から短期大学に為(な)った頃、英語が六科目も配置されていた事に想いを至したことがあります▼その人K氏は上智大学の文学部に編入して、さらに大学院の文学研究科修士課程に進学した後、T短大の教員を経てR大の教授になり、アメリカ文学の根幹の一人とも云うべき作家の作品を両手に余るほど、翻訳し論じ続けたということである▼東京教育大学に進学して高校のころに先生になった人とか、さらにこの人を慕って東教大を受けたら、落っこちたので、私大に編入して大学院の修士を出て別の私大の教員になった人とか、日東駒専級の大学院博士課程を二つ出て、尚神戸大級の官学の博士課程を出て、国立大助教授と公立大教授に納まった人とか。准東大級の国立大の博士課程を出て博士号を貰ったとか、英語の六科目設定の効果は覿面(てきめん)とも考えられます▼本誌六四号『校友の声―図書館で始まった、もう一度の挑戦』は「これからの学生の皆さんにも、どうか安心してほしいと思います。大学での学びはすぐに役に立たなくても、人生のどこかで回収されます…そんな未来も悪くありません、ともに頑張りましょう。」（田代伸子P23）と言っています。ともに頑張りましょう。

藤井　直

「雄峯 第64号」編集委員会

委員長　藤井　直

委　員　青野　貴礼　秋元　耕一
鵜木　由美　大泉　浩三
田中　千枝子　鴨下　一
三津石真知子　八城　一夫

（五十音順）

雄峯

TOKYO FUJI UNIVERSITY

東京富士大学校友会

雄峯 第64号

令和８年３月１７日　印　刷
令和８年３月２０日　発　行
発行人　東京富士大学校友会
　　八城一夫
編集人　「雄峯」編集委員会
事務局　東京富士大学
　　学生支援部内
　　〒169-0075
　　東京都新宿区高田馬場 3-8-1
　　TEL. 03-3362-2252
印刷所　株式会社コーエー